

# 評価調書(県総合評価調書)

## 【評価の基準】

- (1)多様化・高度化する県民ニーズや社会経済情勢等の変化への的確な対応
- (2)厳しい財政状況を踏まえた簡素で効率的な事業展開
- (3)県の財政的、人的関与の適正化による主体的・機動的な団体運営
- (4)役職員体制の適正化による自律的かつ効率的な組織運営
- (5)積極的な情報提供の推進による団体に対する県民の理解と信頼の促進

## 1. 評価結果(個別観点)

観 点	評 価 内 容	評 価
団体のあり方	当財団は、自然系博物館施設の管理・運営と島根県の自然環境・保護に関する調査研究、普及活動を行う公益法人として設立され、島根県における中核的な役割を担っている。また、平成20年度より財団法人島根ふれあい環境財団21(以下「ふれ環財団」という。)の解散に伴う事業及び財産等の継承を受けて、昨年度までの事業内容に、環境保全活動及び地球環境問題に関する情報収集、普及啓発並びに活動支援に関する事業も加わり、財団の果たす役割と期待は大きい。	A
組織運営	理事会・経営委員会は定期的、必要時に開催され活発な意見交換が行われている。ふれ環財団の事業継承に伴う事業内容の増加や、博物館をとりまく社会的要求の多様化・増加に合わせて改正を図った。人事評価制度や中期的な継続雇用などにより職員の資質向上にも努めている。 県の人的関与について 自然環境課の課長が経営委員として参画しているのみで、財団は主体的な団体運営を行っている。	A
事業実績	特別企画展や各観察会などの業務に加え、新聞等への積極的な寄稿などにより三瓶自然館の知名度向上に努めているほか、新たな環境教育プログラムづくりや隣接施設との連携による学校利用の促進、地域との連携による案内マップ作成など幅広い活動を行っており、当初予測した施設利用者の減少カーブに対し、安定した利用者数及び利用料金収入の確保が図られている。	A
財務内容	当財団の性格上多くの収入を指定管理料収入に頼ってはいるが、企画展やイベント等の計画により、計画数値以上の収入を得、コスト縮減等に努めている。またふれ環財団から一部財産も継承されたことで、自己資本が増加し財政基盤の安定が見込まれる。 県の財政的関与について 17年度より指定管理者となっていることから、収入が指定管理料主体であるので財団に対する関与はなくなっている。	B

評価の目安 A:良好である B:ほぼ良好である C:やや課題がある D:課題が多い

## 2. 総合評価

団体の経営評価報告書における総合評価について	課題の内容等	今後の方向性	評価コメント
	三瓶自然館の自然系博物館としての博物館機能の充実及び魅力の向上	設置者として、県もPR活動等に協力して、魅力向上を図っていく。	現状維持に満足せず、常設展示などの見直しやニーズに積極的に答えようとする姿勢は高く評価できる。
	石見銀山地域や古代出雲歴史博物館等施設との連携	担当課と歴博や銀山の担当部署と調整を図り施設連携にあたっていく。	現在、島根県が県外からの認知度も高まり県内の観光動態が大きく変化して来ているので、積極的な営業やサービスに努めて三瓶への流れをつくってもらいたい
	今期指定管理の検証と次期指定管理に向けた取り組み	指定管理者制度の検証や制度上の課題について解決を図るよう努力する。	指定管理者としての取り組みを十分に検証してもらい、現在の受託団体としての強みを生かして取り組み、次期指定管理募集の時の力にしてもらいたい。
新公益法人制度への対応	公益法人の制度自体も未だにはっきりしない点が多いので、情報収集に努める。	情報収集に努めてもらい、慎重に準備を進めてもらいたい。	
総合コメント			
本財団は、三瓶自然館等の管理運営を目的に設立された団体であるが、平成17年度より指定管理者制度に移行し、県との財政的な関係が整理され、その後は独自の経営努力により経営の安定化に努めてきている。平成20年度からはふれ環財団の解散に伴う事業継承を行い、再び県との財政的な関係が生じることになるが、県民が主体的に行う、ボランティア・NPO活動や環境保全活動の支援も行っていくことから、今後は環境全般を担う団体として県内各団体や県民との連携を深め幅広い取り組みを展開してもらいたい。			